

花咲かみつばちプロジェクト

—全国高校生 農業アクション大賞を受賞して—

岐阜県立恵那農業高等学校 食品科学科 古田花凜

私たちの生活の周りには数多くの植物が生息しています。それらの植物の花が咲くころには多くの昆虫が訪花します。植物の中でも虫媒花は、繁殖するために送粉者による受粉が必要です。様々な送粉者の中でもミツバチは真社会性の昆虫であり、効率の良い受粉を行うため農業生産と生態系において重要な役割を持っています。しかし、現在ミツバチは蜜源の減少、寄生ダニや農薬被害、里山の荒廃により生育環境が悪化するなどの要因によりその数を減らしています。この問題を解決しなければ、農業生産への影響のほか、里山の生態系への影響が懸念されます。そこで里山の生物多様性の保全と持続可能な農業生産、農村景観の復活と保全を目指し、ミツバチに関する調査・保全・活用の三つの取組みを柱として活動を始めました。

まずは調査です。ミツバチの送粉サービスを解明することで、ミツバチが里山の農業と環境に貢献していることを証明することが狙いです。中部大学と連携をし、DNAバーコーディングと植物相調査を利用した解析手法を構築しました。花粉DNAの配列から候補植物を絞り込み、開花植物の記録から訪花植物を特定します。調査の結果、農作物から野生植物まで幅広く訪花していることがわかりました。

次に保全です。ミツバチは農作物のみならず、多様な植物に訪花して、蜜や花粉を集めています。そのため、生態系の豊かな里山にとってミツバチは必要な存在です。しかし、蜜源の減少や全国規模で農業の課題となっている耕作放棄地の増加により、ミツバチへの被害が

増加しています。そこで、耕作放棄地を行政と地元企業と共同で農地として復活させ、地域住民と共同で蜜源・花粉源となる作物の栽培を行うことで里山の保全に取り組みました。

最後は活用です。主にハチミツやミツロウを代表とする養蜂生産物と地元の農作物や特産品を使った商品を地元企業と連携し開発・販売を行っています。訪花昆虫の役割や地域農業の魅力を商品の流通と共に情報発信することで、地域農業を活性化させ、養蜂生産物と再生農地で収穫した農作物を活用した商品開発を行い商品の販路を作ることで、儲かる農業の仕組みを構築していきます。

しかし活動の規模が広がるにつれて高校生の力だけでは限界を感じました。そこで地域に根差した活動を継続、発展させていくために、卒業した先輩方や地域の方々と共に特定非営利活動法人さとはちを立ち上げました。今年度はコロナ禍により私たち高校生の活動が制限されてしまう中、さとはちのメンバーと商品のオンライン販売や密を避けたイベント活動を開催することができました。

私たちの活動は少しづつ広がりを見せていますが、まだ地域の中でしかありません。また、ほかにも様々な課題や壁が今後立ちふさがってくるでしょう。しかし、私たちの暮らす里山やミツバチを守るためにも、今後もより多くの方々に活動の魅力を伝え、蜂と人が共存する里山の環境を守る輪を広げていくことができるよう精一杯取り組んでいきたいです。

(ふるた かりん)